

# 令和3年度 朝来市立生野小学校 学校評価

## 学校教育目標

「生きる力を育む学校づくり」  
～探究的な学びの実現～

## 総合的な学校関係者評価

・この2年間、コロナ渦の中ではあったが、総じて子どもたちは落ち着いて生活できており、先生方の努力に感謝している。  
・ICTを活用した授業は、先生方の様々な工夫が見られる急速に情報化が進んでいるが、人が人を教えることが基本であると十分に認識してほしい。  
・郷土愛を育むためには、まずは先生方に生野のよさを知ってもらいたい。その気持ちを持って子どもたちの指導にあたってほしい。

自己評価 達成状況 (A: 達成している B: 概ね達成している C: あまり達成していない D: 達成していない)

	評価の観点	達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)	
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	・ホームページや学校だよりでは、学校の教育目標である「生きる力を育む」について、日頃の教育活動の成果や課題を取り上げながら情報発信してきた。 ・今年度もコロナ禍で予定していた学校行事が例年のように実施できなかった。このような状況の中でこそ、保護者や地域住民への連絡は大事にしたい。 ・オンラインを活用した参観等。新たな方法を求める保護者の声がある。個人情報の取り扱い等に配慮しながらニーズに応えていきたい。	・学校教育目標に基づく教育活動については、コロナ渦ではあったが、子どもたちのために様々な工夫をしてもらっていると感じている。ただ、2年間の教育活動の制限の中で、どのようにすれば従来の形、新たな形が見いだせるのかを検討してほしい。例えば、運動会の無観客等については考えてもらいたい。
		オープンスクール(学校公開)など住民参加の教育活動の推進	B		
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	・校内研修を通して、学級の「到達目標」「具体的な取組」を明確にし、学期毎に自己評価しながら改善を図ってきた。今後も、学級経営の意識を大事にしたい。 ・毎月の「生活(いじめ)アンケート」、生活指導委員会の開催や、日頃の情報交換、家庭との連絡などを通して、常に児童の状況把握と理解に努めた。	・小学校と中学校が連携して実施した校内マラソン大会は、ようやく普通の学校に戻ってきたような嬉しい雰囲気にも包まれていた。観覧者の制限等の考慮も必要だが、地域住民も子どもたちの頑張りをみることに期待している中で、このような行事の際には、是非町内に告知放送してほしい。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B	・問題が生じた場合には、すぐに事実確認をし、対応策を講じ、改善に向けた対応に努めてきた。また、必要に応じてスクールカウンセラーとの連携を図ってきた。 ・「安心して子どもが通える学校か」の質問に対して、「あまりあてはまらない」と回答する保護者がいることに重きを置きたい。児童の良い面を伸ばすことを大切にしながら、今後も日頃の情報交換を欠かさず、迅速な対応を心がけていく必要がある。	・定期的に学級通信等をだしていたが、学校内の様子がよくわかる。保護者の参加制限もある中で学校生活なので、今後も積極的に情報発信してほしい。
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A		
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B	・地震、火災、救助など目的を明確にした避難訓練が実施できた。特に救助訓練は、想定通りに進まない事態が生じ、マニュアルの点検・見直しの必要性も出てきた。また、来年度以降に向けて新たな課題を設け体制の整備を図ってきたい。	・子どもたちと向き合って、指導してもらっているのではないかと感じている。ただ、コロナ渦における児童生徒のいじめや不登校が問題視されているので、しっかり対応してほしい。
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B	・学校運営協議会において、「校区の安全マップ」を作成中である。学校生活の安全だけでなく、登下校や家庭生活にも目を向け、通学路の安全点検や防犯グループ、「子ども110番の家」との連携等をより明確に行っていくたい。	・挨拶ができていない子とそうでない子がいるので、学校だけでなく家庭でも声をかけていかなければいけない。挨拶は大人のねばり強さが大事である。徐々にその大切さに気づかせる。生活習慣の改善については、家庭と学校が共通で取り組むこと。課題の共有化を図っていけるようにしたい。
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A	・通級指導担当とも連携を図りながら、日常的に情報交換を行うとともに、校内教育支援委員会を定期的に開催し、児童の状況を共通理解した上で家庭と連携して指導にあたることができた。	・災害や防災については、学校運営協議会や自治協議会と協力して取り組んでいかなければいけない。
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	B	・換気・手洗い・マスク着用を毎日最低2回は放送で呼びかけながら、感染予防対策に取り組んだ。特に第6波感染期には、校時表の変更や授業途中の大幅な換気タイムを設けることで、学校における感染を食い止めることに努めた。	・地域の方の力を活用した取り組みができています。今後も、どんどん活用していきましょう。
	あさごどりームアップ事業	特色ある学校づくり	A	・3年生のアゲハチョウやオオサンショウウオの学習、運動会で取り組んだ「生野踊り」など、地域の特色を活かした教育活動に取り組めた。また、伝統文化の学びの充実事業と関連させ、全学年が自分たちの住む町について学ぶ機会が持てた。	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立ち情報活用能力育成を含めた授業改善、授業のUD化の推進	A	・探究的な学びを実現するために、授業では「目標の明確化」と「振り返り活動の充実」を基本的なスタイルに据えて取り組んだ。家庭での自主学習においても、めあてや振り返りを意識する児童もみられるようになった。	・授業のICT化が進んでいる。教育の型が進化してきている。グループで対話する場面があったが、自然に行われていた。全体的に落ち着いた学習態度である。教室や廊下に掲示されている絵も一人一人の個性があり上手に描けている。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B	・探究的な学びと授業のUD化を実現するために、思考スキルを高めることを校内研修のテーマに設定し取り組んできた。思考ツールの先進校である関西大学初老部から講師を招いて研修を積み、具体的な実践につなげてきた。授業中に「これは思考ツールを使うとうまく整理できる」と児童が気づけたことは大きな成果である。	・グループで話し合ったり、タブレットを使ったり、しっかりと学習に励んでいる姿が見られた。 ・児童の減少が続いていると思うのだが、少なさを感じさせない活気が教室の中にあっただ。 ・人前で自信を持って発表して感動した。 ・先生方に生野についてもっと学んでほしい。異動もあるので教職員の中で生野の文化や伝統について共有できていたら、赴任してきた先生も理解しやすいのではないかなと思う。
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B	・児童一人一人が自分の考えを持ち発信し、意見を交流させながら自分の考えを高めていくことに、ある程度の成果が見られてきた。 ・道徳科の授業においては、多面的・多角的な意見が児童の発言として出されるのが重要であることから、学級内の人間関係づくり＝学級経営の研修も積んできた。	
	総合的な学習の時間	全体計画に基づく工夫改善	B	・「総合的な学習の時間を発信的なもの」と、昨年度の講師に指導を受け、4年生が生野PRポスターを市内数カ所に掲示させてもらったことで一つの成果を見た。	
	人権教育	人権尊重の精神の育成	B	・カナディアンアカデミーとの交流を、今年度はオンラインで実施した。学習で培った英会話を実践する良い機会となった。早くコロナが終息し、従来の交流を復活させ、多様な文化を理解する学びへとつながってほしい。	・私たち大人も若い人の意見を聞きながら子どもも連と接していく必要がある。
課題教育	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	・自然学校、オオサンショウウオの学習や田植え・稲刈り体験など、児童が自主的に取り組める体験活動を推進することができた。特にオオサンショウウオの学習においては、中学2年生からクイズ形式で学ぶ機会を設け、小中連携を深めた。 ・学校卒業生にどの学年も指導にあたってもらい、具体的な教材を活用した食育の推進に取り組むことができた。	・もっともっと生野のことを知って、その良さを誇りに思える人になってくれれば良いと思う。そのためには人と人のつながりが大事である。登下校については、上級生が下級生の面倒を見る気持ちが養われていると思う。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	B	・伝統文化の学びの充実事業の取組として、小中9年間を見通した「ふるさとキャリアパスポート」を作成した。ふるさとへの愛着を記録していくと同時に、同じ施設や風景に対して児童の考え方や思いがどう成長していくのか、今後継続を図ってきたい。	・子どもたちは地域の一員である前に、家族に一員として自覚を高めてほしい。何か家庭での仕事や手伝いに取り組めるようなことが大切であると思う。
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B		
	その他	伝統文化の学びの充実事業	A	・2年間の指定を受け、柘の実太鼓・石刀節・生野の祭り・銀の馬車道等の学習や体験を通して、児童一人一人に生野の良さを知らせ、感じさせることができた。今後は、保護者や地域への発信のあり方について考えていく必要がある。	・地域の祭りや伝統行事の早期復活が望まれる。そのような時に学校で培われたことが活かされるようになってほしい。